

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こばんはうすくら 新潟中央教室

保護者等数(児童数)20人

回収数 16数

割合 80%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	2		1	すべて見ていないのでわからない。 大人から見ると狭いと感じる。 最近活動量と釣り合わないのか狭いという事がある。	身体を動かす活動は戸外を活用したり、室内に置いて安全対策を取りながら遊具の整備やスペース確保できる環境を整える。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12	1		3	まだすべて見ていないのでわからない。 少なくとも送迎時は適切だと思う。	専門性のある申し送りに繋げるため、月次研修を実施していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	15					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	13			2	毎回見学しているわけではないのでわからない。	使用後の遊具の消毒や換気、食事用のシート、製作用シートを敷く等床の清潔を保つ。活動内容によって間仕切りなどで活動場所を設定する等適宜職員間で共有しながら設定する。
適切な支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	16					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	16					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	15			1	自身に専門知識がないので支援・プログラムが本人に合っているかわからない。	支援計画の説明時にお子様の状態、具体的な支援内容を説明する。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	14	1		1	通い始めたばかりなので不明	季節や園の行事に合わせた活動を織り込む。安全な配置を整え、戸外活動も増やす。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6		2	7	施設外活動もあるので、機会はあるように思う。 短い時間の中、難しいと思っている。	近隣の公園等で関わりの持てそうな方と交流し、出来ることから実施していく。 個人情報についての配慮も同時に考える。
保護者への 説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	16					
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	6		3	7	イベントの際やHUGでも常に相談に乗ってもらって助かっている。 相談していない部分もあるので、これから相談していきたいと思う。	イベント後に保護者同士で交流が持てる機会を設けたり、親子療育をイベントとして取り入れるなど、出来る事から実施していく。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	14	2		1	利用を始めたばかりなので分からない。	HUGのシステムを活用し、日々の支援内容が共有できるようにする。 必要に応じ、送迎時に保護者の方と口頭で活動内容やこどもの変化を伝えるようにする。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8		4	4	通い始めたばかりなので不明	ご家庭の状況を確認しながら、個別支援計画の見直し時に面談時間の確保や、療育見学をしてもらう中で、日ごろのお悩み等聞ける環境を整える。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	3	2	8	保護者同士交流する機会が欲しい。 体調不良などでなかなか参加しづらいこともあ	イベント後に保護者同士で交流が持てる機会を設ける等、出来る事から実施していく。

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	15			1	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15	1			
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	14	1			
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	16				
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	11	2		3	具体的な対応を知りたい。 避難訓練実施前などにHUG機能で各マニュアルから具体的な情報を発信し、適宜保護者に周知してもらう工夫する。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7			9	具体的な対応を知りたい。おこなわれていると思うが、お任せしているので、あまり重要視していない。 避難訓練の様子はブログやインスタの中で具体的に内容を記すようにする。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	16				いつも楽しみにしている。行きたくないと言われたことはない。早く行きたくて着替えもスピーディーにしてくれる。毎回嬉しそうに準備をしている。「楽しい所」「居場所」として毎回楽しみに通っている。 引き続き、安心、安全に過ごせる場所としての環境づくりをし、ひとりひとりの小さな成長を見逃さず、職員間で連携を図り、期待をもって来所できる場所を提供する。(イベントの企画・小集団、個別プログラムの見直し等)
	23	事業所の支援に満足しているか	14	1		1	子どもが受け答えがまだ上手にできないのでわからない。いつもありがとうございます。成長の手がかり、見守りをしてもらい、感謝している。丁寧に対応してもらい、先生方も優しく接してくれており、大好きな居場所となっている。心に余裕が出来、感謝している。 保護者のご協力を頂き、子どもの成長を共感し、発達を促していけるよう、関係機関との情報共有を含め、子どもたちとご家族を中心とした支援をおこなう。
			64	3	0	13	80%

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぱんはうすくら 新潟中央教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	定員に満たされる場合、戸外での活動を多く取り入れ、活動に応じて環境設定を変え、過ごしやすくしている。	季節により、荷物量の増減があるため、荷物置き場の確保、玄関内の靴置きスペースを増やした。
	2 職員の配置数は適切であるか	6	0	特に問題なし。	基本配置・当日の確認を欠かさないよう、視覚化し、事故につながらないようにしている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	気持ちの切り替えが出来るよう、「ゆつくり部屋」の設置をし、落ち着いて活動に再度参加できる環境を整えている。	特性の違いに適切な環境設定をしきれない導線がある。利用人数や特性によって構造化できるよう、パーテーションがマット等でコーナー分けするよう改善する。ヒヤリハット等にて、引き続き危険に気付き、改善を図る。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	2	床がカーベットの為、こまめな清掃。遊具は適宜消毒している。	床がカーベットの為、掃除機のみでの清掃は汚れが取り切れない。こまめに掃除機をかけ、消毒をおこなっているが本格的な洗浄作業は必要。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	3	業務改善内容を、書面で残し、共有している。	PDCAサイクルの理解が職員によって違うため、新入社員には目標設定や振り返りが出来るよう表を作り、職員が同じ方向で参画できるようにした。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	3	開所初年度のため、今後公開する。	開所初年度のため、今後取り組む。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	4	開所初年度のため、今後公開する。	開所初年度のため、今後取り組む。

	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4	特になし。	現段階ではおこなっていないが今後要検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	開所初年度の為、事業所における基礎研修や経験年数別で動画研修受講。所内研修の際、具体的な支援方法(声のかけ方等)を共有している。	研修機会を公平に増やすため、研修内容のアンケートをとり、共通の支援方法が学べるよう、スケジュール化していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	特に問題なし。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	保護者の話をよく聞き取り、支援に必要な情報が得られるよう標準化された内容以外も聞き取るようにしている。	アセスメントツールの項目を再確認し、必要な項目があれば今後付け足していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	特に問題なし。	職員間で再度ガイドラインの読み込みをし、必要な項目の再確認できる機会を持つ。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	特に問題なし。	具体的な支援に繋がるよう、日々計画の確認をおこなう。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	チームで話し合いながら翌々月のプログラムを保護者に提示し、保護者は活動内容の確認がHUGシステム内で確認できる。	チーム内で立案後、事業所全体で活動の目的や支援方法等共有する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	利用日数、人数、小集団内のこどものタイプに合わせ、日々のプログラムを用意している。	子どもの成長集団や季節、園の行事を踏まえながら、見直しを持った活動プログラムを立案する。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	特に問題なし。	個別、小集団での支援内容を作成している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	3	朝のミーティングで必要に応じ、支援内容や役割分担の確認をしている。	送迎で済ませ、運転業務があるため、朝のミーティング時間を簡潔にし、確認する内容を再検討する。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	4	個々の記録は取り、職員間で支援内容やこどもの様子の把握はおこなっている。	システム上、連絡機能で支援内容の把握は出来るが、送迎業務等でその日行われた支援の振り返り時間が持てない為、業務日誌に共有が必要な支援内容等を記載したり、翌朝振り返り時間が持てるよう時間を作る。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	4	記録はシステムに記している。	個別の課題は誰が、何の課題に取り組んでいるのか記載している。
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	2	定期的なモニタリングは必ずおこない、半年に一度個別支援計画を作成をおこなっている。	半年に一度ではなく、3か月に一度のモニタリングが必要な場合もある為、一層丁寧な中間評価をおこなう。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	特に問題なし	児童発達だけではなく、直接支援している職員も今後体制が整えば参画できるようにする。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	特になし	他事業所の見学する機会を作り、関係者で一貫した支援をおこなえるようにする。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	5	現在該当者なし	今後必要なケースを受け入れる場合連携していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	3	現在該当者なし	今後必要なケースを受け入れる場合連携していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	特に問題なし	サービス担当者会議や相談支援事業所のモニタリング等で情報共有をおこなっている。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	保護者のご要望や必要に応じ、就学前の支援計画提供や支援情報提供書を作成し、支援内容共有を図る。	今後も就学前の支援計画提供や支援情報提供書を作成し、支援内容共有を図る。	

	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	サービス担当者会議内で他事業所の様子や助言を頂いている。	助言を頂く機会を設ける。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	5	公園内の運動遊具を一緒に使う中で、会話や遊具のやりとりが出来る場所を選ぶこともある。	個人情報に留意しながら、近隣に園庭開放等おこなっている所があれば参加していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	0	6	参加していない。	今後設けられると良い。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	2	送迎時に様子を伝えることはあるが、共通理解が確認できるまでの把握をする時間がない。	必要に応じ、利用日以外でも保護者面談をおこなえる機会を設ける。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	6	初年度実施していない。	次年度保護者の交流の場を作るところから始める。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	特に問題なし	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	特に問題なし	今後、防犯、感染症等のマニュアルに関する説明をおこなう。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	特に問題なし	保護者の状況に合わせて、ご利用日に保護者に見学の提案や支援計画更新時に面談を行う等、話が出来る時間が作れるよう提案する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	初年度実施していない。	保護者同士の連携支援は今後検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	適切に対応した。	今後も適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	HUGシステムの連絡機能やイベントのお知らせを発信したり、ブログ、インスタを定期的に発信している。	今後も適切に発信する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	適切に対応している。	今後も適切に対応していく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	視覚的な支援(子どもに応じ、提示の仕方を変えて対応している。)を取り入れている。	視覚的な支援だけでなく、意思疎通の出来る支援方法や技法の習得を職員間で共有し、子ども、保護者へ配慮できるようにする。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4	今年度は実施していない。	防犯も踏まえ適宜検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2	職員間でマニュアルの周知はおこなえている。	契約時に保護者へマニュアル提示をし、安心して過ごせる対応を伝える。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	年間スケジュールの中で訓練実施をしている。	訓練内容の見直しをし、現実的な避難訓練をおこなう。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6	0	特に問題なし。	今後も職員間で情報共有を図る。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	クッキングの活動や普段のおやつ提供時契約時に頂いている書面を確認しながら提供している。	今後もおやつ提供やクッキングの事前準備でアレルギーのある子どもへの配慮をおこなう。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	特に問題なし	会議で共有し、すぐに対策を講じている。適宜対応する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	4	ミーティング内で子どもへの関わり方、対応や子どもの様子の把握に努めた。	研修機会を増やす。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2	周知はしている。	児発管がおこなっているが、全体で理解を深める機会を持つ。